

知の現象を発見したい」と意欲をみせる。

新居浜市の金子小学校、南中学校を経て新居浜西高校へ。スペースシャトルが宇宙から帰還したのを見て科学技術に関

東京理科大学理学部第1部教授

徳永英司さん＝新居浜市出身

関東

えひめ人

情報や計測手段として欠かせない光と物質との相互作用を「光を波長ごとに分ける」「分光」を切り口に研究している。「新しい分光法を開発し、未

わる学者を志した。東京大で物理学を専攻。東大大学院時代に考案した分光法は予想もできない信号を捉え、今も論文が引用されているという。

東京理科大では、2007年に「水」に巨大なボツケルス効果（電気光学効果の一種）が存在することを発見。19

光と物質の作用研究

細胞の吸収分光を測定する超解像顕微鏡の改良に携わり「光で細胞の活動を手に取るように見みたい」と探究心は尽きない。研究者を自指す子どもらに「当たり前のこと

年には、この効果を応用し液体の水を利用した光変調器の開発に成功したと発表した。「他に観測できなかったことを見つけたのは一番うれしい」と振り返り、研究室の学生らのおかげと感謝する。

